

# 災害に対する取り組み

## 日本応用地質学会九州支部



### 九州の地盤災害

九州は台風の上陸頻度が高く、梅雨前線が停滞しやすいという地理的条件を背景に、大規模な豪雨災害が頻発。

#### 九州で発生した主な土砂災害

- ・1953年(S28年)西日本大水害
- ・1953年(S28年), 1990年(H2年)石倉地すべり
- ・1957年(S32年)諫早大水害
- ・1982年(S57年)長崎大水害
- ・1991年(H3年)台風19号による風倒木被害
- ・1993年(H5年)鹿児島豪雨竜ヶ水土石流
- ・1997年(H9年)針原川土石流
- ・2003年(H15年)宝川内土石流
- ・2003年(H15年)三郡山塊の斜面崩壊
- ・2005年(H17年)台風14号豪雨災害

昭和28年西日本水害による斜面崩壊  
発生日: 昭和28年6月26~28日



"悪魔の爪痕"と呼ばれた  
門司・風師山系の斜面崩壊



阿蘇・水口川筋の荒廃状況

平成2年 石倉地すべり  
発生日: 平成2年7月4日

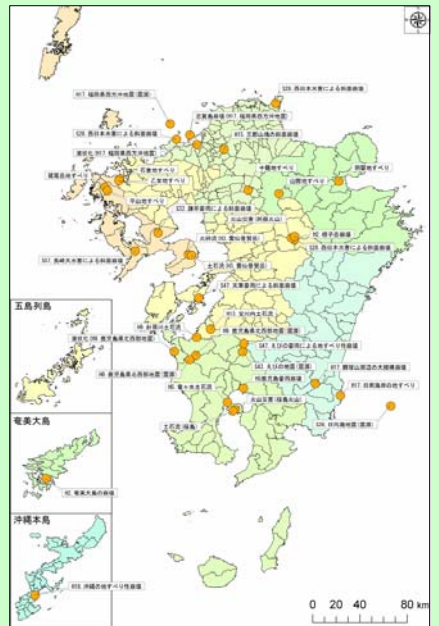


石倉地すべりの全景  
(石倉地すべりパンフレットより)



頭部排土工施工後の状況

九州で発生した主要な自然災害



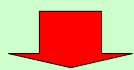
### 災害調査活動(1)

#### 土砂災害

#### ワーキンググループ

平成15年7月18~21日に発生した福岡県三郡山塊の斜面崩壊, 熊本県水俣市の宝川内土石流に際し, ワーキンググループを結成, 現地調査を実施。

"調査結果を地域住民の今後の防災活動に役立てたい"

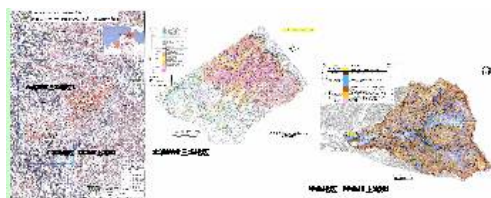


市民向けの調査報告会を企画。被災1周年を期に、「7月19日豪雨災害講演会」と題し、講演会を実施。

平成15年 三郡山塊の斜面崩壊  
発生日: 平成15年7月18~19日



三郡山西側の斜面崩壊発生箇所



斜面崩壊発生箇所の地質平面図

平成15年 宝川内土石流  
発生日: 平成15年7月20日



集落の被災状況



土石流の発端となった崩壊地



土砂災害ワーキンググループ現地調査状況

上: 太宰府・宇美班  
下: 水俣班

### 災害調査活動(2)

#### 地震

#### ワーキンググループ

平成17年3月20日に発生した福岡県西方沖地震に際し, 斜面崩壊に対し地質学的背景に基づいて整理するためにワーキンググループを結成, 現地調査を実施。

調査結果は, 応用地質学会研究発表会にてポスター発表, 応用地質学会九州支部会報に論文として報告。調査結果だけでなく, 応用地質学的立場から今後の復興へ向けて, さらにには地震時の斜面防災対策の方向性について提言。

平成17年 福岡県西方沖地震(玄界島)  
発生日: 平成17年3月20日



玄界島北側斜面で発生した斜面崩壊と宅地の崩壊



復興なった玄界島集落  
(左下は復興モニュメント)

平成17年 福岡県西方沖地震(志賀島)  
発生日: 平成17年3月20日



志賀島東側斜面で発生した斜面崩壊の全貌



上: 頂部滑落崖  
右: 無惨に折れ曲がった電柱



地震ワーキンググループ現地調査状況

上: 玄界島  
下: 志賀島

### これからの災害調査活動～自然との共生、地域社会との共生～

地球温暖化の影響か, 自然災害が頻発している昨今. 自然現象を災害にしないためにすべきこと。

#### 自然との共生を目指して

災害となった自然現象を多くの視点で調査・評価. 多様な専門性を持つ学会員による現地調査は極めて有効。

地域特性の理解も重要. 九州支部で行っているワーキンググループによる災害調査活動を継続していく事が必要。

#### 地域社会との共生を目指して

調査結果は地域社会に還元されるべき。

知らなければ自然との共生はあり得ない. 地域社会に災害現象を解りやすくかつ正確に知らせることが我々の責務と考えています。

#### 少しずつ始めています

太宰府市で調査結果を地域住民に伝える地元講演会を開催

支部30周年に合わせ災害事例集出版

